



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岡山県 岡山市立光南台中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：山田 沙知子 先生 (水泳／競泳)
【出場オリンピック／シドニー2000大会、アテネ2004大会】
- **期 日**：2023年9月22日(金)
- **ク ラ ス**：2年A組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・シドニー2000大会、アテネ2004大会に水泳／競泳競技で出場したと自己紹介。自由形400mと800mを専門にしていた。オリンピックバリューについて、エクセレンスは卓越、努力する。フレンドシップは友達、仲間、チームワーク。リスペクトは敬意、尊重、相手のことを思いやると説明。運動の時間はオリンピックバリューを頭に置きながら参加し、感じたことを座学の時間にオリンピックバリューに結び付けて皆で考えていきたいと授業の目的を伝える。

○主運動等



・準備運動は「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。広げた新聞紙の上に立ち、先生とのじゃんけんで、あいこ負けは新聞紙を半分に折り誰が最後まで新聞紙の上に乗っているかを競う。新聞紙を折る際、1回目は新聞紙から降りてよい、2回目は新聞紙に乗ったまま折るルールで実施。主運動は「新聞ボール運びリレー」を実施(全3回)。2人組で広げた新聞紙の上にバレーボールを乗せて運び、折り返し地点のコーンを回り、次のペアに手を使わずにボールを渡す。3回目はバスケットボールに変更。



・運動の時間を振り返り、主運動の3回目はポイント点を変更したことで、どのチームにも逆転のチャンスがあった。気持ちが入り過ぎてパスの仕方や、新聞紙の扱い方が雑になっていた。一生懸命に取り組んだ結果ではあったが、渡す相手の気持ちを考えてたり、ルールを守ることも大切だ。座学の時間は、運動の時間を振り返り、どんなことを意識したか、また、もっと効率よくボールを運ぶためにはどうすれば良かったか等、班で話し合いオリンピックバリューを考える時間にしたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：山田 沙知子 先生 (水泳/競泳)
【出場オリンピック/シドニー2000大会、アテネ2004大会】
- **期 日**：2023年9月22日(金)
- **ク ラ ス**：2年A組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、オリンピックシンボルについて、5大陸を表し、背景の白を含む6色で世界中の国旗が描けると説明。皆と同じ中学校2年生の時にアトランタ1996大会をテレビで見たことがオリンピック出場を目指すきっかけとなった。スライドを見ながら、オリンピックバリューについて説明。絶対にオリンピックに出場すると決めてからは、どんなに辛い練習でも諦めずに続けることを意識しながら努力した。その結果オリンピックに出場することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、工夫したことや実行できたことを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「ボールを見続ける」「パスを滑らかに渡した」「最後まで諦めなかった」等

フレンドシップ：「声掛けをした」「同じ速さの人とペアを組んだ」「パスをした後は次の人の邪魔にならないようにした」等

リスペクト：「楽しむ」「応援した」「ルールを守った」「ボールを渡しやすいように持っている新聞紙を低くした」等



・運動の時間の作戦タイムでは、どのチームも率先して練習に取り組む姿が見受けられ、勝ちたい気持ちが表れていて素晴らしい。緊張もしたと思うが、緊張することは悪いことではなく、結果を良くしたいと思うが故に緊張してしまう。困難を乗り越えながら目標に向かって取り組んだ充実感は、何ものにも代えられない。小さな努力もこれからの人生に繋がることを忘れずに、日々を大切に過ごしてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年A組



■記念品贈呈

・2年A組



■修了証贈呈

